

《教育長メッセージ 第57号》



『学級の仲間』

3月、学校の一年が終わる月です。

20年以上前、私が小学校で学級担任をしていた頃、3月の学級で子どもたちといっしょに、その空間と時間を過ごすことは、とても楽しいことでした。

4月、入学や進級により、新しい学級がスタートします。

そして、各学級では、一年間をかけての「仲間づくり」がはじまります。

はじめのうちは、みんな緊張してお互いが遠慮して、なんとなくバラバラでも学級集団は進みます。

でも、慣れてくるといくつもの衝突があり、小さな集団に分かれたりして、トラブルが発生します。

逆に、トラブルが起きない場合は、こちらから仕掛けて思いをぶつけ合う状況を設定します。

私と子どもたち、私とひとりひとりの子ども、子どもどうしが、日々、かわりを繰り返し、つながりを深めていきます。

私と子どもたちは、一日のほとんどの時間を一緒に過ごすのですから。

ベースは、楽しい学級、安心できる学級であることで、私は、そこに最善の努力をします。

その安心感をもとに、私と子どもたちが自分を表現するのです。

学級では、やみくもに自己主張やわがままを表現しては、集団が成り立ちませんので、目標を設定して、その達成のためにお互いに、力を出し合います。等身大の自分を表現します。

200日近く一緒に生活し、1000時間（授業単位の時間）近く一緒に学習し、いくつもの行事を越える中で、「仲間づくり」が進むのです。

一年が経過し、3月になると、学級集団がひとつの仲間と呼ぶにふさわしい状態になってきます。

ケンカもできるし、お互いを助け合うこともできるし、私の指示がなくても、自分たちで学級として活動できるようになります。

そして、その頃になると、集団の別れの季節になります。

教員になりたての頃は、仲間との別れを惜しむような「仲間づくり」を終着点だと思って、子どもたちと一年を過ごしましたが、10年を過ぎた頃から、別れを惜しみながらも、次の「仲間づくり」に前向きに進む子ども

もたちを育てることが終着点となりました。

私が担任をしていた頃は、1・2年、3・4年、5・6年と学級の持ち上がりが多かったのですが、今は単年度で学級や担任が変わることが多いようです。

子どもたちは、担任の教員とともに、一年間、「仲間づくり」に取り組み、また次へと、「仲間づくり」を体験します。

「人はひとりでは生きていけない。」とよく言われますが、私は、どんな仲間とも、ともに生活することの楽しさや喜びを大いに味わって、体にしみ込ませてほしいと願っています。

「仲間づくり」は、学校教育の重要な使命です。

今回は、「人事異動」について、私の思いを述べてみたいと思います。